

広島市立学校平和教育プログラム

森川 敦子

本項目では広島市教育委員会が小・中・高等学校における平和教育の指導資料として開発した「広島市立学校平和教育プログラム」を取り上げ、その特徴や意義を明らかにする。

1. 策定の背景と経緯

広島市は人類史上初めての被爆都市として、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けている。こうした中、広島市教育委員会¹⁾は1970(昭和45)年以来、小学校、中学校、高等学校における平和教育資料を逐次刊行したり「被爆体験を聴く会」や「こどもピースサミット」等の様々な事業を展開したりしながら平和教育の推進を図ってきた。しかし、被爆者の高齢化が進み、被爆体験の風化や児童生徒の平和意識の低下が懸念されるようになった。2011(平成23)年に広島市教育委員会が公表した平和に関する意識実態調査²⁾によると、原爆投下の年日時を正確に答えられた小学生は33%、中学生56%、高校生66%にとどまる等、児童生徒の被爆に関する知識や平和への意識の希薄化、これまでの平和教育の課題等が明らかになった。このような課題を受け、広島市教育委員会³⁾は平和教育の目標を達成するために、これまでの平和教育の取組を再検討し、2011(平成23)年度から平和教育プログラムの策定を開始した。そして、2012(平成24)年3月には試案を策定し、モデル校での実践及び効果検証を経て、2013(平成25)年3月に広島市立の小・中・高等学校を対象とした広島市立学校平和教育プログラム及び教員用の指導資料⁴⁾を策定した。

2. 広島市立学校平和教育プログラムの概要

広島市立学校平和教育プログラムは小・中・高等学校の約12年間を見通した系統的・体系的な教育プログラムである。児童生徒が被爆の実相等の事実を捉え、その事実を通して未来を志向し、平和で持続可能な社会の形成者として必要な次の知識や能力等を身に付けることを主な内容としている。小学校第1学年から高等学校まで、最低限共通に学ぶべき内容が、4プログラム、12単元で構成され、各学年の配当時間は3時間となっている。

各学習は学習指導要領に則り、道徳科、国語科、生活科、社会科、図画工作科、特別活動等に関連付けた横断的な学習として位置づけられている(表1)。これらの学習で育成すべき力等として挙げられているのは、「被爆の実相や戦争等に関する知識」、「課題を解決するための思考力・判断力・表現力」、「自他を敬愛し、他者とよりよく関わる技能」、「人や自然を尊重し、世界平和を愛する心情」の4つである。

広島市立学校平和教育プログラムの中心的教材である『ひろしま平和ノート』⁵⁾は、児童生徒の発達段階に即して、プログラム毎に小学校1・2・3年用、小学校4・5・6年用、中学校用・高等学校用の4冊で構成されている(図1)。中は教材、資料とともに児童生徒が学習の学びや思いについて記述できる欄も設けてあり、児童生徒が自分自身の学び

表 1 広島市立学校平和教育プログラムの内容等一覧

プログラム	単元・学年	学習	教科等	備考
プログラム1(小1～小3) ～いのち・しぜん・きずな～ 被爆の実相に触れ生命の尊 さや人間愛に気づく	単元1(小学校第1学年) みんなのたからもの	1 気付く ぼく・わたしのたからもの	図工	宝物を絵にかく
		2 考える ぼく・わたしのたからもの	図工	紹介しあう
		3 伝える 金魚が消えた	道徳	絵本
	単元2(小学校第2学年) みんな生きている	1 気付く もっと草花となかよくなろう	生活	植物観察
		2 考える アオギリ	道徳	
		3 伝える アオギリさんたちへの手紙	国語	作文、ペアトーク
	単元3(小学校第3学年) せんそうがあったころの広島	1 気付く 子どもたちのくらし～今と昔～	社会	ロールプレイング
		2 考える 家族のきずな	道徳	漫画
		3 伝える 引きさかれる家族	道徳	漫画
プログラム2(小4～小6) ～郷土ひろしま 被爆と復興～ 被爆の実相や復興の過程を 理解する	単元4(小学校第4学年) 広島へのひばくと伝えたいこと	1 気付く フラワーフェスティバルにこめた願い	社会	
		2 考える 広島へのひばくと人々のくらし	社会	被爆資料等
		3 発信する 残したいもの・伝えたいこと	道徳	被爆ピアノ
	単元5(小学校第5学年) 広島市の復興と人々の願い	1 気付く 戦争・原子ばくだんがうばったもの	道徳	被爆体験記
		2 考える 復興と人々の願い	道徳	役割演技
		3 発信する 復興・発てんのにない手として	国語	意見文
	単元6(小学校第6学年) これからの広島	1 気付く 平和なまちづくり	社会	再開発事業
		2 考える くらしの中の平和	社会	新聞記事、討議
		3 発信する より平和なまちづくりを目指して	国語	インタビュー
プログラム3(中学校) ～受け継ぐ 平和への思い～ 世界平和にかかわる問題を 考察する	単元7(中学校第1学年) 人々の平和への思い	1 知る お好み焼きに込められた思い	道徳	
		2 思考する 平和記念都市建設に込められた思い	社会	地図
		3 発信する 自分たちの学校や地域社会の平和	国語	グループの話し合い
	単元8(中学校第2学年) 広島と世界とのつながり	1 知る 世界に広がっていったサダコと折り鶴	道徳	
		2 思考する 国境を越えた「愛」と「勇気」	道徳	ジュノー博士
		3 発信する 平和のためのレシピ	国語	グループ交流
	単元9(中学校第2学年) 持続可能な社会の実現	1 知る 核兵器をめぐる世界の現状	社会	
		2 思考する 国際平和に向けての取り組み	社会	平和市長会議
		3 発信する 平和のためのレシピ	国語	主張文
プログラム4(高等学校) ～ヒロシマ発 持続可能な社会の実現～ 世界平和の実現を展望する	単元10(高等学校Ⅰ) ヒロシマ	1 情報整理 平和とは何か	LHR	ブレーンストーミング
		2 思考探求 原子爆弾と被爆の実相	LHR	
		3 発信 被爆体験者が伝えること	LHR	中沢啓二
	単元11(高等学校Ⅱ) 平和で持続可能な社会について	1 情報整理 核兵器について考える	LHR	Web Site
		2 思考探求 ヒロシマに対する人々の思い	LHR	Web Site
		3 発信 ヒロシマから国際社会へ	LHR	Web Site
	単元12(高等学校Ⅲ) 私たちの平和プロジェクト	1 情報整理 平和実現のために自分ができること	LHR	
		2 思考探求 私の平和プロジェクト	LHR	グループ活動
		3 発信 私の目指す進路と「平和」	LHR	マインドマップ
全4プログラム	全12単元	全36時間		

広島市教育委員会『広島市立学校「平和教育プログラム」指導資料』2013年、広島市教育委員会『ひろしまへいわノート(小学校1・2・3年)』2013年、広島市教育委員会『ひろしま平和ノート(小学校4・5・6年)』2013年、広島市教育委員会『ひろしま平和ノート(中学校)』2013年、広島市教育委員会『ひろしま平和ノート(高等学校)』2013年を基に筆者が作成

を振り返るポートフォリオとしても活用できるよう工夫されている。この『ひろしま平和ノート』は、2013(平成25)年度から広島市立学校の児童生徒約10万人に、2013(平成25)年度から無償配布され平和教育に活用されている。



図1 ひろしま平和ノート

3. 広島市立学校平和教育プログラムの特徴・意義

本プログラムの内容や構成等に関する主な特徴は、次の通りである⁶⁾。

- 1) 学習指導要領に基づく、発達段階に即した小・中・高等学校 12 年間の系統的・体系的なカリキュラムである。
- 2) 教科領域を関連づけた共通教材『ひろしま平和ノート』を作成し、広島市立学校の児童生徒（約 10 万人）に無償配布している。
- 3) 原爆の惨禍だけでなく市民が広島市の復興に寄与した事実も取り上げている。
- 4) 持続可能な社会の実現に関わる学習（ESD）の視点を踏まえている。
- 5) 参加体験型学習等のアクティブラーニングを取り入れている。

また、開発や策定過程に関する主な特徴は、次の通りである。

- 1) 行政、学識経験者、学校関係者、市民（NPO 法人等）で構成する策定委員会や作業部会を組織し、多様な視点から開発・策定されている。
- 2) 心理学及び教育学の専門家による効果検証の結果を踏まえて策定されている。

効果検証に関わったト部ら⁷⁾は本プログラムの学習効果として、「児童生徒の原爆投下をめぐる知識が精緻化されたこと」、「平和な社会の構築の為に平和学習が大切だという認識や平和構築に向けた各国の取組への関心が向上したこと」等を指摘している。また、広島市教育委員会が 2016 年に公表した平和に関する意識実態調査⁸⁾では、前回（2011 年）と比較して、「原爆投下に関する知識に関する項目の正答率が全校種において向上したこと」、「小学校では原子爆弾や戦争についての学習材や情報源として『ひろしま平和ノート』が最も多く挙げられていたこと」等が、本プログラムの効果として示されている。

広島市立学校平和教育プログラムは策定以来、国内外から注目され、高く評価されている（例えば第 25 回国連軍縮会議 in 広島 2015、第 5 回平和首長会議 2015、JICA 研修「平和教育」2016、国内ジャーナリスト研修「ヒロシマ講座」2016 等）が、それは前述したよ

うな特徴をもつ本プログラムが、これからの新しい平和教育の在り方に大きな示唆を与えるからではないかと考える。

4. 広島市立学校平和教育プログラムの今後

これからの広島市立学校平和教育プログラムや広島市の平和教育はどのようにあるべきであろうか。平和教育の充実のために、今後特に重要だと考える点は次の4点である。

- 1) 今後も継続的な教育実践と効果検証を行いながら、本プログラムの効果や課題を客観的に把握し、より効果的な教材や指導方法を開発していく必要がある。
- 2) 平和教育を充実させるためには教材と共に教員の指導力が不可欠である。今後も若い世代の教員が増えるため平和教育に関する教員研修を引き続き進めていく必要がある。
- 3) 各学校においては本プログラムを効果的に活用し、学校や地域の実態に応じた平和教育を工夫しながら、主体的に平和構築に取り組む児童生徒の育成を目指す必要がある。
- 4) 広島市の平和教育については、国内外の関心も高い。本プログラムを含む広島市の平和教育について国内外に積極的に発信し、人々の平和構築に対する意識を喚起していく必要がある。そのことも被爆地ヒロシマに課せられた役割の一つではないかと考える。

注および参考文献

- 1) 広島市教育委員会 『広島市公立学校「平和教育プログラム」指導資料』 2013年 2-4頁
- 2) 広島市教育委員会 『調査報告書 平和に関する意識実態調査』 2011年
- 3) 広島市教育委員会 「平和教育プログラムの骨子」 (<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1298266910803/files/heiwa-program.pdf>, 2016.10.30)
- 4) 広島市教育委員会 2013年 前掲書
- 5) 広島市教育委員会 『ひろしまへいわノート小学校1・2・3年』 2013年、広島市教育委員会 『ひろしま平和ノート小学校4・5・6年』 2013年、広島市教育委員会 『ひろしま平和ノート中学校』 2013年、広島市教育委員会 『ひろしま平和ノート高等学校』 2013年
- 6) 広島市教育委員会 2013 前掲書
- 7) ト部 匡司・山崎 茜・石井 眞治 「広島市における新たな平和教育プログラムの効果に関する研究」 広島市立大学国際学部 『広島国際研究 19』 2013年 113-121頁
- 8) 広島市教育委員会 「調査報告書 平和に関する意識実態調査平成28年3月」 (<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1461060381879/files/9.pdf>, 2016.10.30)

追記：筆者は2009年4月から2012年3月まで広島市教育委員会指導第二課に指導主事として在籍し、広島市立学校平和教育プログラムの策定にかかわった。